

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年02月19日

計画の名称	南吹田駅周辺緑化重点地区整備計画														
計画の期間	令和02年度～令和06年度（5年間）										重点配分対象の該当	○			
交付対象	吹田市														
計画の目標	南吹田駅周辺緑化重点地区を含む豊津・江坂・南吹田地域において、都市公園等の再整備及び道路の透水性舗装を実施することで、都市景観の改善、良好なまちなみの形成、地域コミュニティの形成等を図り、豊かな生活空間を形成する。														
全体事業費（百万円）		合計（A+B+C+D）		707	A	707	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / （A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（R2当初）	（R4）	（R6）
1	都市公園等の清掃等の活動団体数を10団体（R2）から13団体（R6）に増加			
	都市公園等の清掃等の活動団体数	10団体	11団体	13団体
2	「散歩したくなる」と感じる住民の割合を22%（R2）から26%（R6）に増加			
	「散歩したくなる」と感じる住民の割合	22%	22%	26%
3	「木々や草花などの緑が多いので、まちに愛着や誇りを感じる」と感じる住民の割合を52%（R2）から55%（R6）に増加			
	「木々や草花などの緑が多いので、まちに愛着や誇りを感じる」と感じる住民の割合	52%	52%	55%
4	まち歩きによる医療費抑制効果を0千円／年（R2）から11,000千円／年（R6）に抑制			
	まち歩きによる医療費抑制効果	0千円／年	0千円／年	11000千円／年

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	吹田市	直接	吹田市	-	-	グリーンインフラ活用型 都市構築支援事業	グリーンインフラに関する調 査・計画、都市公園等の再整 備及び歩道の透水性舗装等	吹田市	■	■	■	■	■	707		-
											小計						707		
											合計						707		

事後評価

○ 事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

事後評価の実施時期

吹田市土木部公園みどり室にて評価を実施

令和7年12月

公表の方法

吹田市土木部公園みどり室HPにて公表

○ 事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

歩道の整備による歩行環境の改善や都市公園等の再整備による都市環境・景観改善及び、良好なまちなみの形成を行ったことにより、地区内住民の散歩意欲の増加及びまち歩きによる医療費抑制効果につながった。また、まちに愛着や誇りを持つ住民の増加に寄与した。しかし、地域コミュニティの形成の指標として設定した都市公園等における清掃等の活動団体数の増加には直接的につながることができなかった。今後は地域コミュニティの形成に向け、支援制度などの周知、啓発が必要と考えられる。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

○ 特記事項（今後の方針等）

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	都市公園等の清掃等の活動団体数		
	最 終 目標値	13団体	再整備によって公園の使いやすさ、機能強化は達成したものの、清掃等のボランティア活動を支援する制度の周知不足や公園利用の呼びかけの不足が原因と推測される。そのため今後はより公園再整備の効果を発揮させるための情報の発信・啓発を行う必要があると考えられる。
	最 終 実績値	10団体	
2	「散歩したくなる」と感じる住民の割合		
	最 終 目標値	26%	歩道の整備による歩行環境の改善や都市公園等の再整備による景観の改善が、散歩したくなるまちづくりに寄与したと考えられる。
	最 終 実績値	26%	
3	「木々や草花などの緑が多いので、まちに愛着や誇りを感じる」と感じる住民の割合		
	最 終 目標値	55%	歩道の整備及び都市公園等の再整備によって花壇やみどりを整備し、木々や草花などを育てるまちづくりを実施したことが、まちに愛着や誇りを持つことに寄与したと考えられる。
	最 終 実績値	56%	
4	まち歩きによる医療費抑制効果を0千円/年（R2）から11,000千円/年（R6）に抑制		
	最 終 目標値	11000千円 / 年	歩道の整備による歩行環境の改善や都市公園等の再整備による景観の改善が、散歩したくなるまちづくりに寄与し、まち歩きの増加につながったものと考えられる。ただし令和2年度はコロナ禍だったこともあり外出頻度が減っていた。そのためコロナ禍明けでの事後調査時（R7）と比較すると、歩数に大きく変動があったものと推測される。
	最 終 実績値	166928千円 / 年	